

愛知県心身障害者コロニーの再編について

- 愛知県心身障害者コロニーは、本県の総合的な福祉センターとしてその役割を果たしてきましたが、平成19年3月「心身障害者コロニー再編計画」、平成23年11月「愛知県地域医療再生計画」に基づき、入所者の地域生活移行及び県内の障害者医療の拠点施設としての再編を進めてきました。
- 昨年度には、重症心身障害児者の支援体制を強化するため、本県では初となる民間による施設整備計画が実現しました。また、本年10月に養楽荘及びはるひ台学園の入所者(知的障害者)の新たな移行先となる民間施設整備を公募により決定することができ、更なる地域移行の推進と再編計画の着実な推進が見込まれます。
- コロニー再編計画が計画どおり進捗することにより、障害のある方が身近な地域で安心して生活できる体制が整備され、地域の障害福祉サービスの更なる充実が期待されます。

心身障害者コロニー

心身障害者コロニーは、心身の発達に障害のある方の医療支援、研究・生活(入所)支援・療育支援等を行なう総合的な福祉センターとして昭和43年に設立しました。

部門	施設名(種別・規模等)	26.12.1 入所者
医療支援	中央病院 175床	82人
	こばと学園 (重症心身障害児施設) 180床	158人
研究	発達障害研究所 7学部	—

(病院はショートステイを含む25年度稼働実績)

療育支援	緑の家 (短期母子療育施設) 8組	—
	あいち発達障害者支援センター	—
生活(入所)支援	はるひ台学園 (福祉型障害児入所施設) 80人	者34人 *児7人
	養楽荘 (障害者支援施設) 140人	38人
	春日台授産所 (知的障害者授産施設) 50人	—

(※ はるひ台学園の児童は地域療育部門へ)

再編の考え方

<心身障害者コロニー再編計画の策定(平成19年3月)>

- ・入所者の計画的な地域生活移行の推進
- ・地域生活を支援する拠点センターへの転換



医療支援部門を中心に再編

<愛知県地域医療再生計画(平成23年11月)>

- 地域で対応が困難な障害児者の医療支援
- 発達障害医療ネットワークの中核として県内の障害医療の拠点機能
 - ・県内の発達障害医療の拠点
 - ・小児及び周産期医療の後方支援
 - 常時濃厚医療が必要な重症心身障害児者 NICU 長期入院患者の在宅移行支援

地域生活移行の推進

- ・地域生活移行を進め知的障害者の入所施設は廃止
- ・地域生活移行が困難な入所者については、地域の施設への移行や県有地等を活用した民間による施設整備等を検討

◆地域移行の状況 (18年4月~26年11月) (人)

区分	18年4月	移行実績	26年12月
重心児者	174	17	158
知的障害児者	284	202	79
合計	458	219	237

再編後の姿

【医療療育総合センター(仮称)】

部門	施設機能・規模等
医療支援	○病院部門 147床
	○重心部門 120床 常時濃厚医療が必要な重心児者に対応
	○研究部門 5学部
地域療育	○福祉型障害児入所施設 37人 児童の短期療育型の入所支援
	○あいち発達障害者支援センター

【地域における施設整備】

区分	施設規模等(開所時期は予定)	新たな地域支援機能
重症心身障害児者	○民間施設 (社福)杏嶺会 H28.1開所 [一宮市 120床] (社福)明世会 H29年度開所[豊川市 64床]	在宅重心児者の短期入所 日中預かり
	○公立施設 第二青い鳥学園 H28.1開所[岡崎市 90床] 名古屋市重心施設 H27.5開所[北区 90床]	
知的障害者	(社福)養楽福祉会(☆) H28.10 第1期開所 H29.4 第2期開所 [春日井市 80人]	就労継続支援 生活介護 自立訓練 グループホーム 短期入所

地域療育部門へ

H26.10 移行先決定

21.4 廃止